

令和6年2月

魚津市定例記者会見



日時:令和6年2月1日(木) 午後1時30分～午後2時05分

場所:市役所 第一会議室

報道出席者:北日本新聞社、北陸中日新聞社、富山新聞社、読売新聞、朝日新聞

市当局出席者:市長、企画部次長(情報広報課長)

【市長からの発表事項】

1. 将棋タイトル戦の開催

(企画政策課)

第49期棋王戦コナミグループ杯5番勝負第1局が魚津市で開催される。話題の対局であり楽しみにしている。協賛企業も魚津の企業が多くあり、地元をあげて応援しようという内容になっている。関連イベントも多く予定されており、ミラたん杯こども棋王戦ではお子様達も楽しみにしておられると思っている。毎回、注目されている食事やおやつについては、魚津の地場産を使ったものをご提供すると聞いている。指導対局や解説会には、魚津市出身の村田6段や富山県ゆかりのプロ棋士をお招きする。

2. 魚津市公式LINE「ミラChat」トライアル運用実施

(情報広報課)

「24時間いつでも、どこでも魚津市の行政に関する疑問点を解決してくれる。」をコンセプトとして、令和4年5月に「ICT・デジタル技術の活用促進に関する連携協定」を締結したソフトバンク株式会社と連携し、自動応答システム『ミラChat』のトライアル運用を開始。

(市長:スマホを使って説明)

時間にとらわれないサービスの展開は今後さらに必要になってくると考えている。

3. トイレトレーラー ラッピングデザイン(案)の決定

(総務課)

令和6年3月下旬納入予定のトイレトレーラーのラッピングデザインについて、令和6年1月23日に選考委員会を開催し、デザイン案を決定した。楽しいデザインになったと思う。クラウドファンディングについては、期限となっていた1月31日23時時点で、249件11,665,000円のご支援をいただいた。ご支援に感謝申し上げたい。もう少し早ければ今回の震災に対応できたとの思いもあるが、今後の運用活用について、しっかり機能できようになりたい。

4. 魚津市まちづくりフォーラム 2024

(地域協働課)

例年開催しているまちづくりフォーラムを本年も開催する。本年4月から市内13地区の公民館をコミュニティセンター化し、より自由度の高い地域づくり活動や地域資源等を活用した取り組みが可能となることから、このフォーラムで機運を高めていただきたい。基調講演では、富山へ移住し、地域コミュニティの再構築に取り組んでいる中谷幸葉氏をお迎えする。

5. 関係人口創出・拡大事業セミナー

(地域協働課)

関係人口の取組に対する意識醸成を図るため、ワーケーションの先進地である長野県千曲市から講師を招聘し、市民向けセミナーを開催する。魚津市でもワーケーションの取組みをすすめているが、先進地である長野県千曲市からゲストをお招きして取組みを教えていただく。千曲市では、対話や交流できる環境を市が提供し、参加者の価値観を変えていこうといったものであり、参加者が自発的にプロジェクトを考えて立ち上げている。自治体を中心に進めるのではなく、地元参加者らが立ち上げることで、持続可能な事業となっているとのことである。

6. おにぎりサミット開催

(農林水産課)

一般社団法人おにぎり協会と魚津市を含む7自治体でおにぎりサミットが開催される。おにぎりは都会や海外で注目されている。2月2日に「究極のおにぎり」と究極のおにぎりに合うメニューの発表と試食が行われるほか、3月に開催予定のコラボキャンペーン企画にも魚津市は参加することとなっている。シンプルなおにぎりをメインに地域と地域をつないでいくといったコンセプト。魚津からは、ベニズワイガニを食材として出している。

7. 2024 ポリテクビジョン in 新川

(商工観光課)

北陸職業能力開発大学校で毎年恒例の「ポリテックビジョン in 新川」が開催される。記念講演や学生のみなさんによる制作・開発課題展示など、ものづくりの力を知ることができる2日間となっている。記念講演では株式会社デンソーウェーブソリューション事業部の澤田洋祐氏をお招きし、産業用ロボットの可能性についてご講演いただく。

8. 令和5年度 魚津市市民公開講座

(健康センター)

魚津市主催、富山ろうさい病院・魚津市医師会の共催で市民公開講座を開催。コロナ禍で中止していたが、4年ぶりに開催することとなった。高血圧をテーマとした内容となっている。

【質疑応答の内容】

○トイレトレーラーについて

《記者からの質問》

クラウドファンディングで集まった寄付金はトレーラーの購入費用に充てられるのか。本体価格は。他自治体などで能登半島に行っている例はあるのか。

《回答》

トレーラーの購入費用は約2,600万円であり、市の負担となる3割分をクラウドファンディングによりご支援いただくこととしていた。能登半島に向かうトイレトレーラーで、いくつかの自治体が本市で給水して向かわれている。全体では10台を超えるトレーラーが、被災地へ向かったと聞いている。

○七尾市への支援について

《記者からの質問》

災害協定を締結している七尾市へ義援金を届けると聞いているが、人的支援の要請はあるのか。

《回答》

職員派遣の要請は今のところはないが、今後、インフラ整備を進める段階になると、技術者の派遣要請などは出てくると考えている。七尾市は災害時相互応援協定締結市でもあり、積極的に支援したい。

○その他

《記者からの質問》

市職員の名札の表記の変更があったが、今後の人事異動での発表も顔写真なしなど、対応を変更するのか。

《回答》

人事異動の発表と名札の取扱いを一緒にするところまでは考えていない。

《記者からの質問》

AIの活用方針など、市長の中でまとまっていることがあれば教えてほしい。

《回答》

新年度予算編成でもAIを活用した事業展開も検討している。職員の事務の効率化、市民サービスの向上を図ることができる事業であれば、積極的に取り組んでいきたい。